

カザフ語と日本語の依頼表現の対照分析⁽¹⁾

——カザフ語の補助動詞による格下げの例をもとに——

二ノ宮崇司、ボランクロバ・サマル、
シャダエヴァ・マディナ（カザフ国立大学）

要 旨

本稿は Blum-Kulka et al. (1989) による CCSARP という枠組みに基づき、カザフ語と日本語の依頼表現の対照分析を行う。対照分析の結果、カザフ語母語話者は日本語を学習する際、カザフ語において格下げの効果をもつ補助動詞が日本語においても同じような機能を有すると考え、*-a turw*, *-a salw*, *-p žiberw* の直訳である「～しながら立つ」「～しながら入れる」「～して送る」でも、格下げとしての役割を果たすと誤解する可能性がある。また、日本語母語話者がカザフ語を学習する際、*-a turw*, *-a salw*, *-p žiberw* による補助動詞の意味の代わりに、副詞の表現を多用し、カザフ語母語話者にとって違和感のある依頼表現を作り出す可能性がある。

キーワード：依頼、異文化間発話行為実現プロジェクト、補助動詞、副詞

1. はじめに

本稿は Blum-Kulka et al. (1989) の異文化間発話行為実現プロジェクト (Cross-Cultural Speech Act Research Project、以下 CCSARP) という枠組みに基づき、カザフ語と日本語の依頼行為の対照研究を行う。CCSARP は依頼と謝罪を通言語的に調査することを目的として作られた。Blum-Kulka et al. (1989: 11-12) によれば、「(依頼は謝罪と同様、) Brown & Levinson (1978) が指摘する face-threatening acts を構成している。... 被依頼者は自分の自由な行動への差し出がましい脅かし、あるいは依頼者の権力の見せつけとして依頼行為を捉えうる。一方、依頼者は依頼が必要なことであるということをさらけだしてしまう、もしくは被依頼者の顔をつぶしてしまうという恐れのために、依頼するのをためらう場合がある」という。そのため、依頼は依頼者にとって気を使う場合がありうる行為であると言える。Blum-Kulka et al. (1989: 12) によれば、「依頼は聞き手への押し付けの効果を和らげるような行動を要求している」という。このような気を使うことで、押し付けの効果を和らげるような表現を本稿は調査する。Blum-Kulka et al. (1989: 12) は依頼の表現を文法的に和らげる方略を統語的格下げ (syntactic downgrader) と、また語彙・句的に和らげる方略を語彙・句的格下げ (lexical-phasal downgrader) と呼んでいる。二ノ宮 (2015: 99) の指摘に従い、本稿では統語的格下げを文法的格下げと呼ぶ。それぞれの格下げには以下のようなものがある。

・文法的格下げ：疑問、準備条件の否定、接続法、条件法、アスペクト、テンス、条件節

・語彙的・句的格下げ：ポライトネス標識、控えめ表現、緩衝表現、主観化表現、語調を弱める表現、甘言、懇願表現

文法的格下げに関して、Blum-Kulka et al. (1989: 281-283) はゲルマン系、ロマンス系

の言語を取り上げて、それぞれの格下げの例を挙げている。ただし Blum-Kulka et al. (1989: 281) によれば「類型論的に異なる言語であれば、統語的格下げの内容も異なると考えられる。そこでその内容を言語ごとに修正する必要がある」という。カザフ語の格下げを想定する時、上の文法的格下げ以外に補助動詞による格下げを設定した方がよいということを提案する。カザフ語において、本動詞の次に補助動詞が来る。そして本動詞の語尾には完了副動詞の -p (もしくは -ip, -ïp) か未完了副動詞の -a (もしくは -e, -j) が置かれる。本稿は -a turw, -a salw, -p žiberw という組み合わせを格下げの範疇に取り込む。

本稿の目的はカザフ語の -a turw, -a salw, -p žiberw という補助動詞を使った依頼表現とそれらに対応する日本語の表現を対照することにある。本稿の第2節では、カザフ語のデータ収集方法について説明する。第3.1節ではカザフ語の依頼表現を補助動詞ごとに確認する。そしてそこで補助動詞化しているものがそうでないものより和らげていると説明する。第3.2節では両言語の対照分析を行う。-a turw, -a salw, -p žiberw は日本語において副詞として訳されうる。žiberw の本動詞としての意味は「送る」、salw は「入れる」、turw は「立つ」というものである。しかし -a turw は「ちょっと～する」、-a salw の場合「ついでに～する」、-p žiberw は「今だけでいいので～する」になる。そこからカザフ語母語話者は日本語で「ちょっと～してください」、「ついでに～してください」などと言おうとする時、補助動詞としての turw, salw, žiberw を本動詞のように訳し、日本語母語話者にとって格下げにならない依頼表現を作る可能性がある。また、日本語母語話者がカザフ語を使用する際、-a turw, -a salw, -p žiberw といった補助動詞を使わず、副詞を多用して、不自然な依頼表現を作りうる。

2. カザフ語のデータ収集方法

本稿では Blum-Kulka et al. (1989) の談話完成テスト (discourse complete test 以下、DCT) を利用して、カザフ語の依頼表現のデータを収集した。Blum-Kulka et al. (1989: 14-15) は様々な依頼表現を取得できるよう、以下の複数の場面を設定している。

- ・Kitchen (A student asks his roommate to clean up the kitchen the latter had left in a mess the night before)
- ・Street (A young woman wants to get rid of a man pestering her on the street)
- ・Notes (A student asks another student to lend her some lecture notes)
- ・Ride (A student asks people living on the same street for a ride home)
- ・Information (An applicant calls for information on a job advertised in a paper)
- ・Policeman (A policeman asks a driver to move her car)
- ・Extension (A student asks a teacher for an extension on a seminar paper)
- ・Lecturer (A university professor asks a student to give his lecture a week earlier than scheduled)

DCT の例として、Kitchen (キッチンで)、Notes (ノートを借りる)、Information (仕事の募集) の場面では以下の形式で質問をした。

<Asxanada> (キッチンで)

Siz qasıñızda turatın köršijızden asxananı žinawdı surañız. Dosıñız keşe keškisın asxananı

qordangandıqtan, žinalınbaj tur. (あなたはルームメイトの友達(同性)にキッチンを掃除するようお願いをする。友達は昨日の夜、キッチンを使って、キッチンはまだ汚れたままである。

Siz (あなた) : _____

Dosıñız (友達) : Keşir, qazır birден žinajmın. (ごめん、すぐに片づけるね)

<Däpterin suraw> (ノートを借りる)

Siz stwdentsiz. Keşegi psihologija sabağının leksijasına qatısa almağandıqtan, dosıñızdan leksijanıñ däpterin surañız. (学生であるあなたは友達から昨日の心理学の講義ノートを借りたい。あなたは昨日講義に出られなかった。

Siz (あなた) : _____

Dosıñız (友達) : Žapajdı, bıpaq ertenge dejin qajtarıp ber. (いいよ。だけど明日までに返してよ)

<Žumisqa alw žajlı xabarlandırw> (仕事の募集)

Sizdiñ internettegi xabarlandırwda berilgen (siz qalağan) žumisqa turğınız keledi. Žumis ornına xabarlasıp, qandaj žumis ekendigi žajlı surağınız keledi. (あなたはインターネットで募集されたアルバイトの仕事(あなたのお気に入りの仕事)に応募したい。会社に電話をかけて、仕事内容について質問したい)

Siz (あなた) : _____

Qızmetker (アルバイト会社の人) : Tutqanı žawaptı adamğa berejin, ija. (担当者に変わりますね)

カザフ語母語話者 26 名からカザフ語の DCT データを収集した。調査協力者にはそれぞれ話すように書くよう伝えた。なおカザフ語のデータ分析に際して、筆者であり、カザフ語母語話者である Shadaeva Madina と Borankulova Samal がその確認を行った。Shadaeva Madina は 3 才から 14 才まで Kyzylorda で、15 才を Almaty で過ごした。教育はカザフ語学校で受けた。Borankulova Samal は 3 才から 5 才の途中まで Karaganda で過ごし、それから 15 才まで Almaty で過ごした。彼女も教育はカザフ語で受けた。両名とも現在は Almaty で生活している。

3. 結果・考察

3.1. カザフ語のデータ

格下げの役割を果たしている補助動詞 -a turw, -a salw, -p žiberw の例を以下に示す。筆

者の Samal, Madina によれば、-a turw は常にというわけではなく、一時的にという意味があるという。また -a salw は「ついでに～する」、-p žiberw は「今だけでいいので～する」という意味があるという。

<-a turw>

- (1) keše leksija žazğan dāpterīndī ber-e tur-ši
 昨日 講義 書いた 君のノートを 貸す-未副 立つ (命 2.sg.np.) -提
 ötīn-e-m. (ノートを借りる)
 お願いする-未副-1.sg.
 「昨日講義で書いた君のノートを一時的に貸してよ、私はお願いします」
- (2) keše sabaqqa kel-e al-ma-dım. bul sabaqtıñ leksijası
 昨日 授業に 来る-未副 持つ-否-単過 1.sg. この 授業の 講義
 mağan öte qažet bol-ıp tur leksija dāpterīndī
 私に とても 必要な である-完副 している 講義 君のノートを
 ber-e tur-a-sıñ ba? (ノートを借りる)
 貸す-未副 立つ-未副-2.sg.po. か
 「昨日授業に来ることができなかった。この授業はとっても大事なんだ。君は講義ノートをちょっと貸しますか」
- (3) kešir, bīr ötinišim bar edi ... keše leksijağa
 ごめん 1 私のお願い ある だった ... 昨日 講義に
 qatis-a al-ma-dım, sondıqtan dāpterīndī
 参加する-未副 持つ-否-単過 1.sg. ですので 君のノートを
 ber-e tur-a al-ma-j-sıñ ba? (ノートを借りる)
 貸す-未副 立つ-未副 持つ-否-未副-2.sg.np. か
 「ごめん、1つお願いがあるんだけど、...昨日講義に参加できなかったので、君のノートをちょっと貸すことができないかな？」

<-p žiberw>

- (4) mina žerdī žina-ma-j ket-ıp-sıñ. ötīn-e-m,
 この 場所を 片づけない-否-未副 去る-完副-2.sg.np. お願いする-未副-1.sg.
 žinastır-ıp žiber-e-sıñ be? (キッチンで)
 片づける-完複 送る-未副-2.sg.np. か
 「ここを片づけずに行ったね。お願いだから、今だけでいいので、片づけますか？」
- (5) sizderde qandaj žumıs türleri bar? ajt-ıp žiber-iñiz-ši. (仕事の募集)
 あなた達に どんな 仕事 種類 ある 言う-完副 送る (命) - 2.sg.po.-提
 「あなた達にはどのような仕事がありますか？ 今だけで結構ですのでお時間をいただき、教えていただくというのはどうでしょう」

<-a salw>

- (6) asxana kešelī berī žinal-ma-j tur. qolıñ tise,
 キッチン 昨日 以来 片づく-否-未副 している 君が忙しくないなら
 žina-j sal-sa-ıñ-ši. (キッチンで)

片づける 入れる-条件-2.sg.np.-提

「キッチンが昨日から片付いていない。忙しうしいなら何かのついでに片づけてくれるのはどうかな」

<-p žiberw + -a salw>

(7) asxananı žina-p žiber-e sal-şı, tañǵı
 асхананы жина-п жібер-е сал-шы, таңғы
 キッチンを 片づける-完副 送る-未副 入れる (命 2.sg.np.) -提 朝の
 asımdı taza žerde išejin. (キッチンで)
 私の食事を きれいな 場所で 私が食べたいな

「キッチンを何かのついでに片づけてね。朝食をきれいな場所で食べたいな」

以上、格下げとしての役割を果たす例を確認した。それぞれ補助動詞化しているものはそうでないものよりも和らげられた表現を示していると筆者の Samal と Madina は指摘する。そのため、これら補助動詞化したものは格下げとしての役割を果たしているといえる。補助動詞化したものと、それに相当しつつ、補助動詞化していない例を表 1 にまとめる。

表 1: カザフ語における補助動詞化の例、補助動詞化していない例

| | 補助動詞化の例 | 補助動詞化していない場合 |
|-----|--------------------------|---------------------------------|
| (1) | bere turşı | berşı (貸してよ) |
| (2) | bere turasıñba? | beresıñbe? (貸すか?) |
| (3) | bere tura almajsıñ ba? | bere almajsıñ ba? (貸すことができないか?) |
| (4) | žinastırıp žiberesıñ be? | žinastıraparasıñ ba? (片づけるか?) |
| (5) | ajtıp žiberıñızşı | ajtıñızşı (おっしゃってくださいね) |
| (6) | žinaj salsañşı | žinasañşı (片づけてくれるのはどうかな) |
| (7) | žinap žibere salşı | žinaşı (片づけてね) |

なお (2) については、和らげのない beresıñbe? という表現も DCT のデータから確認することができた。

-a turw (ちょっと～する) と -a salw (今だけでいいので～する) は意味的には Blum-Kulka et al. (1989: 283-284) の語彙・句的格下げの内の控えめ表現 (understater) に相当すると言える。それによれば、控えめ表現とは「自分の依頼内容はたいしたものではないということ話し手が示すために用いる副詞修飾」(‘Adverbial modifiers by means of which the speaker underrepresents the state of affairs denoted in the proposition’) とあり、Could you tidy up a bit? の a bit、Is there a little room for me in the car? の a little といったものなどがそれに相当する。カザフ語の場合、「ちょっと」に相当する副詞として waqıtša のようなものが存在する。しかし補助動詞によっても、その意味合いを示すことが可能である。

3. 2. 対照分析

カザフ語と日本語の共通点として、補助動詞が存在するという点がある。特に、以下で確認する、カザフ語の körw 「見る」、berw 「与える、あげる」は日本語の用法と同様である。一方、本稿で取り上げたカザフ語の 3 つの補助動詞は日本語において副詞的に訳され

うるという点が両言語の相違点である。カザフ語の (1) - (7) は補助動詞であるが、日本語において *-a turw* は「ちょっと、一時的に」に、*-a salw* は「ついでに」に、*-p žiberw* は「今だけでいいので」のように副詞に相当する。

上の相違点から、次のような誤用の可能性が考えられる。まず、カザフ語母語話者は日本語にも「立つ」(*turw*)、「入れる」(*salw*)、「送る」(*žiberw*) という動詞を使うことで、カザフ語と同じような格下げを表すことができると考えてしまう可能性がある。実際、カザフ語には日本語と同じような補助動詞化の例が見られる。例えば、中嶋 (2013: 106, 110) によると、*berw* を *-p berw* とすると、「与える」が「～してやる、あげる」の意味になり、*körw* を *-p körw* とすると、「見る」が「～してみる」となるという。そのためカザフ語母語話者は *berw* や *körw* のように、*turw*, *salw*, *žiberw* をそのまま日本語訳することでそれらの動詞を補助動詞化することができると思う可能性がある。つまり *-a turw* は「～しながら立つ」ということで「ちょっと、一時的に」という意味を、*-a salw* は「～しながら入れる」ということで「ついでに」を、*-p žiberw* は「～して送る」ということで「今だけでいいので」ということを表すことができると予測する可能性がある。補助動詞によって格下げされた依頼表現を日本語に訳す際、3.1 節のデータに照らし合わせれば、(1) の *bereturši* (ちょっと貸してよ) を日本語に訳す際、*turši* を本動詞のように扱って、「貸しながら立って」と格下げにならない日本語を作る可能性がある。(5) の *ajtıp žiberiñizši* の場合、*žiberw* を本動詞の「送る」と訳し、「言って送ってください」、(6) の *žinaj salsañşı* では「片づけてつ入れてくれるのはどうかな」という様に訳してしまう可能性がある。

次に日本語母語話者がカザフ語を学習する際の問題点として、日本語母語話者がカザフ語の文を作る際に副詞に頼りすぎることが考えられる。例えば、「ちょっと貸してよ」という際、*waqıtša* (一時的に) *berši* のような表現を、「ついでに片づけてくれるのはどうかな」では *žolaj* (ついでに = *bir-aq, birge*) *žinasañşı*、「今、この時だけで結構ですのでおっしゃってくださいね」では、*tek qana osı žolı ajtıñizši* という言い回しを多用する恐れがある。そして、カザフ語母語話者はそれらを違和感のある表現であると考えてしまう。

4. おわりに

本稿は Blum-Kulka et al. (1989) による CCSARP という枠組みに基づき、カザフ語と日本語の依頼表現の対照分析を行った。依頼内容を和らげるために Blum-Kulka et al. (1989: 281-283) は格下げという方略を提示している。格下げの1つに文法的格下げが存在する。そこで提案されている範疇以外のものとして、カザフ語の例をもとに補助動詞化を文法的格下げの範疇に取り込むことを本稿では提案した。

またカザフ語と日本語の対照分析として、2つの問題点を指摘した。先ず、カザフ語母語話者は日本語を学習する際の問題点を述べる。ある種の動詞を補助動詞化することがカザフ語と日本語で共通しているということにカザフ語母語話者は着目して、カザフ語の *-a turw*, *-a salw*, *-p žiberw* の直訳である「～しながら立つ」「～しながら入れる」「～して送る」でも、それぞれ「ちょっと、一時的に～する」、「ついでに～する」、「今だけでいいので～する」という意味を有すると考えうるだろう。依頼に際して、カザフ語母語話者は格下げを意図して、「～しながら立ってね」「～しながら入れてね」「～して送ってね」という表現

を作るものの、それらを日本語母語話者が格下げとしては捉えないという事態が起こる可能性がある。次の問題点として、日本語母語話者がカザフ語を学習する際、-a turw, -a salw, -p žiberw による補助動詞の意味の代わりに、副詞に頼った表現を多用し、カザフ語母語話者にとって違和感のある依頼表現を生み出す場合がありうる。

今後の課題として、今回提案した補助動詞化のように、カザフ語と日本語にとって適切な格下げの範疇を構築する必要があるということを挙げておく。

注

- (1) 本研究は、カザフ語国立大学東洋学部の日本語教師による研究プロジェクト「カザフ語母語話者による第2言語としての日本語習得研究」の一環を成している。本稿におけるカザフ語のローマ字表記、キリル文字、音価は以下のように対応している。なお、音価については中嶋(2013: 3-6)を参照した。i <и> [ij], e <е> [e/je], a <а> [a], ä <ә> [æ], o <о> [ɔ], ö <ө> [ø], u <у> [u], ü <ү> [ʉ], ı <ы> [ə], i <і> [i], p <п> [p], b <б> [b], t <т> [t], d <д> [d], k <к> [k], g <г> [g], q <қ> [q], s <с> [s], z <з> [z], ts <ц> [tʃ], š <ш> [ʃ], ž <ж> [ʒ], x <х> [x], ğ <ғ> [ɣ], m <м> [m], n <н> [n], ŋ <ң> [ŋ], r <р> [r], l <л> [l], j <й> [j], w <у> [uw], ja <я> [ja]。本稿の略号は以下の通りである。1.=1人称、2.=2人称、3.=3人称、sg.=単数、po.=敬体、np.=非敬体、未副=未完了副動詞、完副=完了副動詞、否=否定、単過=単純過去、命=命令、提=提起。

参考文献

- 中嶋善輝 (2013) 『カザフ語文法読本』 大学書林
- 二ノ宮崇司、シャダエヴァ・マディナ、ボランクロヴァ・サマル (2015) 「カザフ語と日本語の依頼行為における対照分析：異文化間発話行為実現プロジェクトの統語的格下げの例をもとに」 白山利信 (監) 『第12回文明のクロスロード：言語・文化・社会の様相』 筑波大学中央アジアオフィス 96-102
- Blum-Kulka, Shoshana, Juliane House and Gabriele Kasper (1989) *Cross-cultural pragmatics: Requests and apologies*. Norwood: Albex.
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1978) *Universals in language usage: Politeness phenomena*. In: Esther N. Goody (ed.) *Questions and politeness: Strategies in social interaction*, 56-311. Cambridge: Cambridge University Press.

(二ノ宮崇司、カザフ国立大学上級講師、s0430062.ninomiya@gmail.com)
(ボランクロバ・サマル、カザフ国立大学上級講師、samal715@yahoo.co.jp)
(シャダエヴァ・マディナ、カザフ国立大学上級講師、madshad_2010@mail.ru)